

(案)

# 第4次国有林野施業実施計画書

(多摩森林計画区)

計画期間 自 平成23年4月 1日  
至 平成28年3月31日

関東森林管理局

## 目 次

1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域	1
2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積 又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごと の更新方法及び更新量	1
(1) 伐採造林計画簿	1
(2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等	1
(3) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積	2
(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等	3
(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量	3
(6) 伐採総量	4
(7) 更新総量	5
(8) 保育総量	5
3 林道の整備に関する事項	6
4 治山に関する事項	7
5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域	8
(1) 保護林の名称及び区域	8
(2) 緑の回廊の名称及び区域	8
6 レクリエーションの森の名称及び区域	9
7 その他必要な事項	1 2
(1) 施業指標林、試験地等	1 2
(2) フィールドの提供	1 3
(3) その他	1 3

## 1 国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域

国有林野の区画の名称及び区域並びに3機能類型及びタイプ別の区域については、別添国有林野施業実施計画図による。

## 2 施業群及び生産群の名称並びに区域、伐期齢又は回帰年、上限伐採面積又は標準伐採量、伐採箇所ごとの伐採方法及び伐採量並びに更新箇所ごとの更新方法及び更新量

### (1) 伐採造林計画簿

伐採・更新箇所ごとの伐採・更新面積及び方法等については、別添伐採造林計画簿に示すとおりである。

### (2) 水土保持林（水源かん養タイプ）における施業群別面積等

（単位 面積：ha、伐期齢：年）

施業群	面積	取扱いの内容	伐期齢又は回帰年
スギ 長伐期	14.73	伐採面積の縮小、モザイク的配置	90
スギ 分散伐区	10.62	〃	45
ヒノキ 長伐期	27.13	〃	90
ヒノキ 分散伐区	49.82	〃	55
ヒノキ枝打分散伐区	—	—	—
アカマツ 長伐期	—	—	—
アカマツ 分散伐区	—	—	—
カラマツ 長伐期	—	—	—
カラマツ 分散伐区	—	—	—
スギ 複層林	11.37	水源かん養機能に配慮した非皆伐	45～90
ヒノキ 複層林	9.17	〃	55～90
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ分散伐区	—	—	—
ぼう芽 分散伐区	—	—	—
天然林漸伐分散伐区	—	—	—
ブナ漸伐 分散伐区	—	—	—
択伐	0.40	(注) 1による	定めない
その他	11.64	(注) 2による	定めない
施業群設定外	—	—	—
合計	134.88		

(注) 1 択伐施業群の伐採は標準伐期齢以上とし、水源かん養機能の発揮に配慮しつつ隣接林分の主伐、間伐時に併せるなど適時に行うものとする。

2 保護樹帯の伐採は、保護樹帯設定基準によるものとする。

## (3) 水土保全林（水源かん養タイプ）における施業群別の上限伐採面積

(単位：ha)

施業群	上限伐採面積	摘要
スギ長伐期	1	
スギ分散伐区	1	
ヒノキ長伐期	2	
ヒノキ分散伐区	5	
ヒノキ枝打分散伐区	—	
アカマツ長伐期	—	
アカマツ分散伐区	—	
カラマツ長伐期	—	
カラマツ分散伐区	—	
スギ複層林	1	
ヒノキ複層林	1	
その他複層林	—	
天然生アカマツ分散伐区	—	
ぼう芽分散伐区	—	
天然林漸伐分散伐区	—	
ブナ漸伐分散伐区	—	
択伐	—	
その他	1	
施業群設定外	—	
合計	12	

(4) 資源の循環利用林における生産群別の面積等

(単位 面積：ha、伐期齢：年)

生産群	面積	生産目標等	伐期齢又は回帰年
スギ 大径材	—	—	—
スギ 中径材	80.19	一般建築材 (22-26cm)	45
ヒノキ 大径材	—	—	—
ヒノキ 中径材	10.78	一般建築材 (22-24cm)	50
ヒノキ 無節柱材	—	—	—
アカマツ 大径材	—	—	—
アカマツ 中径材	—	—	—
カラマツ 大径材	—	—	—
カラマツ 中径材	—	—	—
スギ 複層林	—	—	—
ヒノキ 複層林	—	—	—
その他 複層林	—	—	—
天然生アカマツ中径材	—	—	—
ぼう 芽	—	—	—
天然林 漸伐	—	—	—
ブナ 漸伐	—	—	—
択伐	—	—	—
その他	—	—	—
生産群設定外	—	—	—
合計	90.97		

(注) 1. 「生産目標等」の数値は、生産目標とする胸高直径である。

(5) 資源の循環利用林における生産群別の標準伐採量

当該森林計画区の「資源の循環利用林」は分収林が大部分であり、標準伐採量は定めないこととする。

## (6) 伐採総量

(単位 面積 ha、材積：)

区 分		林 地				林 地 以 外	合 計		
		主 伐	間 伐	小 計	臨 時 伐 採 量			計	
水 土 保 全 林	国土保全タイプ	—	1,558 (15.10)	1,558	1,100	22,447	—	22,447	
	水 源 か ん	スギ長伐期	—	—					—
		スギ分散伐区	—	—					—
		ヒノキ長伐期	—	—					—
	養 タ イ プ	ヒノキ分散伐区	—	515					515
		スギ複層林	—	1,427					1,427
		ヒノキ複層林	—	482					482
	全 イ プ	天然林漸伐分散伐区	—	—					—
		択伐	—	—					—
		その他	—	—					—
		小計	—	2,424 (22.94)					2,424
		計	—	3,982 (38.04)					3,982
森 林 と 人 と の 共 生 林	自然維持タイプ	—	—	—					
	森林空間利用タイプ	138	17,227 (172.17)	17,365					
	計	138	17,277 (172.17)	17,365					
資 源 の 循 環 利 用 林	スギ中径材	—	6,324	6,324	300	6,850	—	6,850	
	ヒノキ中径材	—	226	226					
	計	—	6,550 (62.59)	6,550					
合 計		138	27,759 (272.80)	27,897	1,400	29,297	—	29,297	
年 平 均		28	5,552 (55)	5,579	280	5,859	—	5,859	

(注) ( ) は、間伐面積である。

## (7) 更新総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
人 工 造 林	単層林造成	—	—	—	—	—	—	—	—
	複層林造成	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—
天 然 更 新	天然下種第1類	—	—	—	—	—	—	—	—
	天然下種第2類	—	—	—	—	0.69	0.69	—	0.69
	ぼう芽	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		—	—	—	—	0.69	0.69	—	0.69

## (8) 保育総量

(単位：ha)

区 分		水 土 保 全 林			森林と人との共生林			資 源 の 循 環 利 用 林	合 計
		国 土 保 全 タイプ	水 源 かん養 タイプ	計	自 然 維 持 タイプ	森 林 空 間 利 用 タイプ	計		
保 育	下刈	—	—	—	—	5.96	5.96	—	5.96
	つる切	1.42	—	—	—	4.81	4.81	—	6.23
	除伐	2.84	3.15	5.99	—	10.67	10.67	—	16.66

### 3 林道の整備に関する事項

基幹・ その他別	開設 ・ 改良別	路線名	箇所 (林班)	延長 (m)	備考
その他	改良	御霊谷	209	70	路面補修
		城山	208	70	〃
		滝ノ沢	205	330	〃
		板当	202	90	〃
		小下沢	212	260	〃
		蛇滝	238	50	〃
		日影沢	227	170	〃
		高尾	246	120	〃
		大垂水	249	160	〃
		大平	246	180	〃
		梅の木平	252	60	〃
	小計	11路線		1,560	

4 治山に関する事項

位 置 (林 班)	区 分	工 種	計 画 量
233、251	保 安 施 設	溪 間 工	5 箇所
233、250、251		山 腹 工	
合 計	保 安 施 設	溪 間 工 山 腹 工	5 箇所

## 5 保護林及び緑の回廊の名称及び区域

### (1) 保護林の名称及び区域

当計画区には、動植物の保護、遺伝資源の保存等を図ることを目的として、下記のとおり保護林を設定し、貴重な天然林等の自然環境維持に配慮しながら適切に保護、保存を図っていくこととする。

種 類	名 称	新既 設別	面 積 (ha)	位 置 (林小班)	特 徴 等
植 物 群 落 保 護 林	高尾山モミ	既設	3.28	238に	モミの分布限界といわれる暖温帯北部と冷温帯南部に位置するモミを主とする天然林。現在は高木層にカシ類等の広葉樹が主でモミの大径木はほとんど見られないが、低木層にはモミの稚樹が多く見られ、次世代への移行が進んでいると思われる。今後どのように遷移していくのか、引き続き経過観察していく。
	大平モミ	既設	1.57	251ろ	モミの分布限界といわれる暖温帯北部と冷温帯南部に位置するモミを主とする天然林。健全な状態で維持されていることから、引き続き現状が維持できるよう管理することとする。

### (2) 緑の回廊の名称及び区域

該当なし。

6 レクリエーションの森の名称及び区域

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自 然 休 養 林	高 尾 山	既設	447.61	高尾山を中心とした区域で、暖温帯と冷温帯の境界にあたる当区域は、スギ・ヒノキを主とする人工林が多い中に、古くから保護されてきた天然林が残る。南斜面にはカシなどの常緑広葉樹、北斜面にはブナ・コナラ等の落葉広葉樹が多く見られるのが特徴的で、四季を通じて多くの人々が訪れている。 今後も利用者の安全に配慮し、巡視の強化に努めるとともに、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。	241は <sub>1</sub> 、は <sub>2</sub>	育成単層林 施業
			----- 風致探勝 ゾーン 155.34		225い <sub>1</sub> ～に 226い <sub>1</sub> ～い <sub>5</sub> 227い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、は～る 228ろ <sub>1</sub> ～ろ <sub>4</sub> 229ろ <sub>1</sub> ～ろ <sub>6</sub> 230い <sub>1</sub> ～い <sub>3</sub> 231ろ <sub>1</sub> ～は 232い <sub>1</sub> ～ほ と <sub>1</sub> ～と <sub>3</sub> 233い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> は <sub>1</sub> ～へ 235ろ、は 238い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ほ～ち ぬ～わ 239ろ、に、ほ 240ろ、は、ほ 241ろ 242ろ、は 243い～ほ 244ろ、は 245い～る 246い <sub>1</sub> ～ぬ 247全 248全 249い <sub>1</sub> ～へ、ち <sub>1</sub> ち <sub>2</sub> 、ぬ～よ	
			292.27		226ろ 227ろ <sub>1</sub> 、ろ <sub>2</sub> 228い、は、に 229い、は、に 230ろ、は 231い 232へ 233ろ、と、ち 235い 236い 237全 238ろ、は、り 239い、は 240い、に	天然生林 施業

種類	名称	新既設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
自然休養林	高尾山	既設			241い 242い 243へ、と 244い 249と、り	天然生林 施業
					225イ 229イ 236イ、ロ 239イ 240イ～ハ 242イ 244イ、ロ 245イ 246イ、ロ	林地以外
自然休養林計			447.61			
自然観察教育林	城 山	既設	100.33	中世の時代に北条氏により築城された「八王子城跡」で、国の史跡に指定されており、スギ、ヒノキ主体の人工林の中にモミ、ツガ、広葉樹の天然林が生育する。自然体験、歴史散策等に適しており、今後も利用者の安全に配慮し、巡視の強化に努めるとともに、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。	206ほ～ち、り <sub>2</sub> 、ぬ 207い～は 208全	育成複層林 施業
					206り <sub>1</sub> 、る、か 207に～へ	天然生林 施業
自然観察教育林計			100.33			
風景林	小 下 沢	既設	260.28	南側の稜線部は影信山から北へ陣馬山、南へ高尾山へと続いており、秩父山系、南アルプス、富士山、丹沢山塊など雄大な景色を望むことができ、登山コースとして人気がある。 今後も利用者の安全に配慮し、巡視の強化に努めるとともに、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。	212い、ろ 213に	育成単層林 施業
					212は 213い～は 214全 215い～は 216全 217い～り 218い～ほ、と、ち 219い <sub>1</sub> ～は、ほ 220い、ろ、ほ～ち 221い～ち	育成複層林 施業

種類	名称	新既 設別	面積 (ha)	選 定 理 由	位 置 (林小班)	備 考
風景林	小下沢	既設			215に、ほ 218へ 219に 220は、に 221り～る ----- 212イ～ニ 215イ 217イ、ロ 218イ	天然生林 施業  林地以外
	南高尾	既設	128.62	スギ、ヒノキ主体の人工林が多い地区であるが、その中にカシ等の常緑広葉樹やブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹が混生する天然林が生育している。 神奈川県境の稜線部からは、東に城山湖、南に津久井湖等を望むことができ、遠景としての森林景観及び森林内から眺望を兼ね備えた立地条件にある。 今後も利用者の安全に配慮し、巡視の強化に努めるとともに、危険箇所の早期発見、安全対策を講じることとする。	252へ 253る 254に ----- 250い <sub>1</sub> ～へ 251い <sub>1</sub> ～い <sub>12</sub> は～と 252い～ほ 253い～へ 254い～は、ほ～と ----- 250と 253と、ち ----- 253イ	育成単層林 施業  育成複層林 施業  天然生林 施業  林地以外
風景林計			388.90			
合計			936.84			

## 7 その他必要な事項

### (1) 施業指標林、試験地等

種類	名称	設定年	面積 (ha)	位置 (林小班)	備考
試験地	小下沢スギ 収穫試験地	S39	2.39	213ろ	成長量・収穫量等の資料 収集及び林分構造の推移 の解明
試験地計			2.39		
展示林	高尾山 江川スギ展示林	H6	0.12	225は	伊豆韮山代官、江川太郎 左衛門の植栽によるスギ 人工林
展示林計			0.12		
精英樹 保護林	スギ東京1号	H11	0.58	203は	
	スギ東京2号	H11	0.36	202は	
	ヒノキ東京 1号、2号	H11	0.28	208	
精英樹保護林計			1.22		
合計			3.73		

(2) フィールドの提供

対象地（林小班）	設定の目的	備 考
216全 217い～り 218い～ち 219～221全	ふれあいの森	小下沢風景林の森づくり活動 171.04ha 平成13年4月に設定 社団法人「日本山岳会」が主体的に活動実施
224い	遊々の森	「高尾・お日 <sup>ひ</sup> の森」 1.74ha 平成22年9月に設定 NPO法人「森づくりフォーラム」が主体的に活動実施

(3) その他

レクリエーションの森以外の森林空間利用タイプの施業方法

位 置	面 積 (h a)	施 業 方 法
206い <sub>1</sub> 、い <sub>2</sub> 、ろ～に、わ 209い <sub>1</sub> ～い <sub>4</sub> 、は～と 224い		育成複層林施業
209ろ		天然生林施業
計	38.73	

(注) (1)、(2)の箇所を除く。